

白

愛知製鋼やヤマハ



自動運転技術には一長一短がある

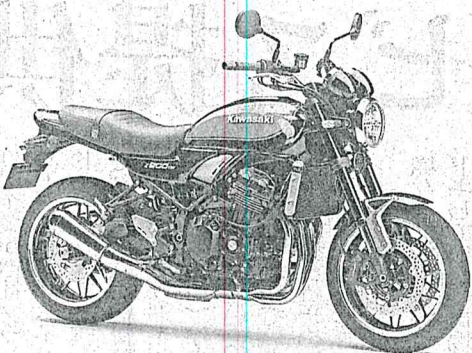
主な技術	原理	弱点
カメラ&AI	カメラに映る物体をAIで画像認識する	雨や霧など不良時に度が落ち
GPS	衛星から電波が届く時間から位置を割り出す	トンネルに電波が入らない
LIDAR	赤外線レーザーを照射して物体との距離を測る	雨や霧でレーザー光が計測精度が落ちる
磁気誘導	磁気センサーでマーカーやケーブルを検知する	インフラ費用がかかる

の「フリーサー・ティ・リトル・ジャパン」(東京・港)は自動運転などによる移動(モビリティ)の社会での活用を進めるために「ADLモビリティラボ」を設立した。次世代移動サービス「Maas」(マース)に注目が集まるなか、サービス参入の戦略立案から事業化まで支援する。同社は2030年に国内でのMaas関連市場は5兆円

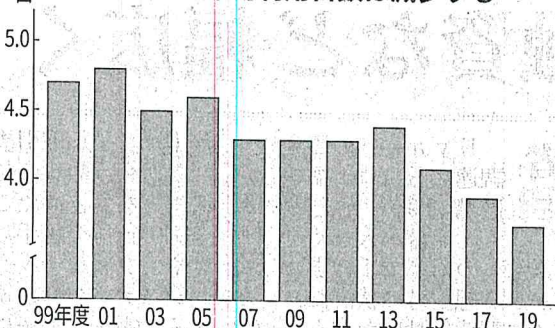
本やフランス、アラブ首長国連邦のドバイなどで、Maasのビジョンの策定や実装への支援を行ってきた。ADLモビリティラボではモビリティサービスへの参入に向けたターゲット顧客や地域の選定、事業計画書の策定に加え、開発計画や協力する企業候補の提案、実証実験の支援、事業化の推進までトータルで請け負う。

二輪復権、カギはレンタル

「リターンライダー」が市場に貢献している(川崎重工業の「Z900RS」)



週あたりの平均利用日数は減少する



(出所)日本自動車工業会調べ

コロナで通勤利用期待も

二輪の利用機会も減った。10代、20代の購入者の割合は5%と厳しい状況だ。80年代のバイクブームに青春時代を過ごし、バイクを再度購入する40、50代の「リターンライダー」が多くなっている。購入者は買い替えが60%と最多で、新規の購入は10%にとどまった。二輪の免許取得者は10万人と直近10年で半数以下になるなど減少に歯止めがかからない。一方で普通二輪免許の取得者は5年ぶりにプラスに転じた。道路交通法施行規則が18年に改正され、自動車免許の保有者はAT(自動変速機)付きの小型バイク免許が従来の最短3日から2日で取れるようになったことが影響した。金設定の見直しも課題となりそうだ。(為広剛)

足元では新型コロナウイルスの感染拡大で、電車やバスなど公共交通機関の代わりに二輪を選ぶ動きも出てきている。全国の二輪販売店などでレンタルが伸び、「在宅勤務」で通勤に二輪を使う人が増えている。二輪の免許取得者は10万人と直近10年で半数以下になるなど減少に歯止めがかからない。一方で普通二輪免許の取得者は5年ぶりにプラスに転じた。道路交通法施行規則が18年に改正され、自動車免許の保有者はAT(自動変速機)付きの小型バイク免許が従来の最短3日から2日で取れるようになったことが影響した。金設定の見直しも課題となりそうだ。(為広剛)

自動車・機械

二輪車の利用機会が減少している。日本自動車工業会(自工会)がこのほどまとめた市場調査で二輪車の週平均の利用頻度は3.7日と2年で0.2日減った。平均年齢も54.7歳と高齢化が進んだ。ただ6割のユーザーはレンタルが購入のきっかけになると考えている。新型コロナウイルスの影響による通勤の足などとしての見直しも含め、復権の力を握りそうだ。

自工会が2019年度に実施した二輪車市場動向調査をまとめた。調査は新車の購入者に調査票を送付し、4967件の回答を得た。隔年で二輪車市場の動向や利用状況などを調べており、今回は若者を中心に二輪車離れが一段と進んでいることが明らかとなった。

マイナス。13年度と比較すると2割強減少した。消費落ち込み、15年度から40万台を下回っている。全体市場としては、需要と2割強減少した。消費落ち込み、15年度から40万台を下回っている。全体市場としては、需要と2割強減少した。消費落ち込み、15年度から40万台を下回っている。

日本自動車工業会(自工会)はこのほどまとめた市場調査で二輪車の週平均の利用頻度は3.7日と2年で0.2日減った。平均年齢も54.7歳と高齢化が進んだ。ただ6割のユーザーはレンタルが購入のきっかけになると考えている。新型コロナウイルスの影響による通勤の足などとしての見直しも含め、復権の力を握りそうだ。